

## 平成 30 年度 学部学生発表奨励賞 受賞作品発表と講評

### 最優秀賞

発表タイトル インバウンドの真価とは——100 年前の貴賓会ガイドブックから観えるもの

獨協大学外国語学部交流文化学科

中植渚・富元美佳・志村琴乃、川口拓真（指導教員 山口誠先生）

（得票数 24 票、内訳一般 11 票、学生 13 票）

### 優秀賞

発表タイトル 千葉県の食育推進を通じた地域活性化のためのゲームに関する一考察

千葉工業大学社会システム科学部プロジェクトマネジメント学科

谷口恭果、佐藤晃良／さとうあきら、藺田諒人／そのだりょうと、（指導教員 遠山正朗まさお先生）

（得票数 10 票、内訳一般 5 票、学生 5 票）

### 講評

今年度の学生ポスターセッションは、全体で 10 件の応募がありました。大学の数としては 7 大学であり、関西や関東、四国の大学からの応募をいただきました。意欲的に取り組んでいただいた学生の皆様、ご指導いただきました会員の先生方に厚く御礼申し上げます。また大会参加者の皆様におかれましては、多くの方にセッション会場におこしいただき、活発な質疑応答や議論を行っていただきました。実りあるセッションとなりましたことに感謝申し上げます。

各々の研究に対する講評を申し上げます。

最優秀賞の研究は、近年急増したインバウンドに対して経済効果や日本のブランディングの視点からではなくサードカルチャーというこれまでに無かった視点からの検討を行った研究です。事例として明治時代の貴賓会を取り上げ、そこから KINBEI をはじめとするサードカルチャー的な文化が生まれていたことを明らかにし、その観点から今日のインバウンド政策の真価としてはサードカルチャー的な思考が重要であることを指摘した、極めて斬新かつ学術的な研究でした。

次に優秀賞の研究は、千葉県の食育を推進するためにゲームを活用する可能性を探った研究です。千葉県内に点在する様々な食材への理解がどのように推進できるかを実践的な活動を通じた経験から説明された、説得力のある研究でした。

それでは今回の研究発表の全体的な印象につきまして、少し触れさせていただきます。

まず今回のテーマにつきましては、インバウンド、食育推進、カフェ研究、登山者の行動特性、プラットフォームマネジメント、商店街活性化、都市イメージ、ダークツーリズム、そして墓と観光開発など、極めて多岐にわたるものでした。改めて、学生の皆さんの興味分野の広さと斬新さを再確認いたしました。

研究手法としては、どの研究も共通してしっかりしたフィールドワークが行われており、インタビューやアンケート、参与的な観察に基づく考察が行われていました。さらに地域と協働した取り組みをすでに始められており、そこで発見された課題を論に組み込まれた研究も散見できました。更に研究を単発的にとらえずに、継続性を意識して、その展望を述べられた研究が複数見られたことも、今後に大きな期待を抱かせるものでした。

学生ポスターセッションも、今回で7回目を迎えることになりました。言うまでもなく、研究を行う者にとって考えをまとめ、発表し、他者に意見を問うことは極めて重要であり、本学会のセッションが学生の皆さんに対してその機会となっていることは、非常に有意義であると思います。今回ご参加いただいた学生の皆さんが、セッションを通して大きな成果を獲得されたことを期待しております。また先生方に於かれましては、今後このセッションを充実したものにするためにも、更に積極的な応募を学生に促していただきますようお願い申し上げます。